

群馬大学国際教育・研究センター ニュースレター

Newsletter from International Education and Research Center Gunma University

2012 Vol.12



はじめに

群馬大学国際教育・研究センター
センター長 土橋 敏明



目次

1. はじめに
2. 留学生教育部門から
群馬大学スプリングプログラム2011
3. 国際交流部門から
(1) JASSO 日本留学フェア
(タイ) に参加して
(2) サンディエゴ州立大学短期
語学研修 SDSU プログラム
4. 留学生相談室から
(1) 「留学生サポートデスク
ISSD (荒牧)」による来日
直後の支援について
(2) 多言語プロジェクト (スペ
イン編・ブラジル編) に
ついて
5. 留学生研修旅行(上高地方面)
報告
6. 群馬大学留学生の声
遠くて近い群馬

【付録】
新入教員・職員紹介

群馬大学国際教育・研究センターでは、大学のグローバル人材育成推進の方針のもと、従来から実施してきた留学生に対する日本語教育を始めとする留学生の受け入れに加え、在学生の海外への送り出しの役割も担うようになりました。また、異文化理解を進めるための授業を行い、インターナショナルラウンジなど海外からの留学生と日本人学生が共に学ぶ環境づくりの提案も行っています。国際教育・研究センターのこのような業務は、事務部門の学務部国際交流課等と協働して行っており、この部局の特徴と言えるかもしれません。母国を離れて暮らす留学生と関わり、日本人学生と留学生との意思疎通の問題に遭遇することも多いため、教職員にはホスピタリティーに富んだマインドが必要とされますが、一同熱心に取り組んでいます。

国際交流を推進するためには、信頼関係のある海外の大学や機関を増やすことが必要ですが、現在までのところ、学生の受け入れ先と送り出し先の大学が必ずしも同一ではない点が課題であり、イコールパートナーシップを確立した海外の協定校の開拓が急がれているところです。多くの学生が留学を望む英語圏の大学とイコールパートナーシップを確立するためには、先方の大学の学生にとって魅力あるプログラムが必要であり、従来の日本語による授業だけでなく英語による授業を提供するなど各部局の協力が必要とされます。

なお、留学生の教育に関してですが、本学は、前橋市の荒牧キャンパス、昭和キャンパス、留学生の約2/3を占める桐生市の桐生キャンパスと複数のキャンパスが散在しており、効率よく行うことが求められています。

本センターニュースは群馬大学の国際交流に関する最近のニュースを取り上げたものですが、是非国際教育・研究センターの活動の一端についてご一読いただき、ご協力をお願いいたします。

2. 留学生教育部門から

群馬大学スプリングプログラム2011

群馬大学国際教育研究・センターでは、JASSOから「平成23年度留学生交流支援制度による奨学金」を得て、平成24年2月27日から3月10日までの約2週間、「群馬大学スプリングプログラム2011」を実施しました。

本プログラムは群馬大学で開催する最初のショートプログラムでしたが、交流協定校から定員を超える応募があり、その中から10名の参加学生を選抜しました。内訳は、中国の海南大学1名、大連理工大学3名、タイのモンクット王ラカバン工科大学1名、泰日工業大学2名、スロベニアのリュブリャナ大学2名、アゼルバイジャンのパクー国立大学1名でした。

プログラムは、参加学生が各自でテーマを設定し群馬大学の日本人学生と共に調査を進めて報告を行うというプロジェクトワークと、お茶・書道・邦楽などの伝統文化を実地に体験する授業から構成されていましたが、参加学生はいずれにも積極的に取り組んでいました。特にプロジェクトワークの報告前日は、大学で夜9時過ぎまでプレゼンテーション用の資料作成にあたるなど、最後

まで熱意を持って取り組んでいるところが印象的でした。

このようなプログラムは、参加した留学生だけではなく、サポートに入った日本人学生にも大きな意識変化をもたらしたと感じています。在学中に留学してみたいと考えようになった者、欧米以外の海外に目を向けるようになった者、日本の中では当然だと考えていたことをもう一度見直してみたいと考えようになった者など、広い視野を獲得しようとする姿勢、物事に柔軟に対峙しようとする姿勢が見られるようになったように思います。

グローバル人材育成が大学の目標の一つとなりつつある今日、日本人学生を海外に派遣することだけでなく、群馬大学の内なる国際化を進めることも非常に重要です。本プログラムのようなものを恒常的に開講していくことには多大な労力を要しますが、大学の内なる国際化を進めるための大きな一助となると思われ、今後も継続して開講できるよう努力していきたいと考えています。

(国際教育・研究センター准教授 牧原功)



3. 国際交流部門から

(1) JASSO日本留学フェア(タイ)に参加して

2012年度のJASSOの日本留学フェアはタイへ。本学はタイのチェンマイ大学と国際交流協定を結んでいます。毎年、本学ではチェンマイ大学から2名ほど留学生を迎えています。日本語学科の学生で、本学で1年間日本語をみっちり学び、日本文化研修(邦楽・日本美術・武道)に勤しんでいます。昨年度には「群馬大学スプリングプログラム2011」(2012年2月～3月)という短期留学プログラムに、タイのモンクット王立ラカバン工科大学と泰日工業大学から計4名の学生が参加しました。また、国際教育・研究センターの国際シンポジウムにチェンマイ

大学から1名の日本語担当の先生が参加され、授業進捗や日本語の習得状況について意見交換しました。このようなタイとの緊密な関係のなか、私たちは、さらに留学生を求め、9月14日にチェンマイ会場、16日にはバンコク会場を訪れました。今回は、工学部の山田先生と工学部学生支援係の関口さんが同行してくれました。山田先生には、写真にあるとおり、群馬県と本学の宣伝用ポスターを準備いただきました。会場では、学生さんや現地の先生方に加え、会場関係者や他大学の担当者までもが足を止め、大きく鮮明なポスターに見とれていました。

チェンマイ会場は30名、バンコク会場は50名ほどの学生が留学相談のため、本学のブースを訪れました。そのなかには両親や先生と一緒にの学生さんもいて、熱心さがひしひしと伝わってきました。とくに授業料や奨学金、留学生活に関する質問が多く、前橋や桐生は都内に比べ家賃相場や物価が低いこと、国際交流会館の入居費用が安価であること、授業料免除制度を設けていることなど、好印象を与えているようでした。バンコク市内の高校生からは、高校で日本語の授業があるほど日本留学の人気は高いと聞きました。親日的な雰囲気の中、今後の可能性を感じさせるタイ留学フェアでした。

(国際教育・研究センター准教授 野田岳人)



(2) 米国サンディエゴ州立大学短期語学研修 (SDSU) プログラム

今年度のサンディエゴ州立大学短期語学研修は国際交流課及び国際教育・研究センターが中心となって、募集、事前指導、送り出しを行いました。例年10名に満たなかった参加者ですが、今年度は、本学からの奨励金の支援の成果もあり、参加者は過去最高の32名（教育学部16名、社会情報学部4名、医学部2名、工学部10名）

<事前オリエンテーション・トレーニング>

11月～ 募集開始

12月20日 第1回目のオリエンテーション実施

(プログラム概要・OBOGからのアドバイス・事務手続き等)

1月17日 第2回目のオリエンテーション実施

(事務手続き・ビザ説明・保険・奨励金について・事前アンケート等)

2月14日 第3回目のオリエンテーション実施

(学長挨拶・危機管理・事前トレーニングの実施)

なお、2月に実施された事前トレーニングは、センター教員の園田が担当しました。For Success of Study Abroadというタイトルで実施された研修のテーマは大きく3つ、“Set the target”“Express yourself”“Stereotype & cross cultural communication”でした。短期間の

語学研修を実りあるものにするためには、学生一人一人の目標設定が非常に重要になります。また、引込み思案な日本人学生にとって、しっかりと自分や自分の意見を表現できることは、日本語であれ、英語であれ、グローバルなコミュニケーションには最も重要になってくることでしょう。さらに、多文化、多人種の環境に慣れていない日本人学生には、自分自身のステレオタイプや、偏見に気が付く機会も少なく、研修ではそういった海外に初めて渡航する学生に必要なスキルを補えるものとなるよう工夫しました。研修には、ちょうど群馬大学に留学中のサンディエゴ州立大学の学生を含む7名の留学生にもアドバイザーとして参加してもらい、50%ほどを英語で実施しました。日ごろから英語でのコミュニケーションに慣れていない多くの参加者は、戸惑いながらも、高いモチベーションで研修に参加してくれました。また、留学生との直接対話の経験が、新たな目標と、学習意欲の発見につながってくれたと思います。実施者にとっても今後の事前トレーニングのために大変参考になるワークショップとなりました。

(国際教育・研究センター講師 園田智子)



サンディエゴの学生と英語会話のみでタスクに挑戦する学生たち。



サンディエゴ出発1週間前！学長とプログラムコーディネーターのフーゲンブーム先生とともに記念撮影

4. 留学生相談室から

(1)「留学生サポートデスクISSD（荒牧）」による来日直後の支援について

群馬大学国際教育・研究センターでは、交換留学生の増加やそれにとまなう支援ニーズの多様化に対応するため平成24年度から荒牧キャンパスに留学生サポートデスク（ISSD=International Student Support Desk）を立ち上げより柔軟な支援を可能にしています。今年度、前期、後期合計の利用件数は230件となり、生活や勉強の相談、日本語の会話相手にと、スタッフが活躍していることがわかります。

さらに、今年度は、ISSDの新しい取り組みとして、9月に来日したばかりの留学生の生活上の支援のため、街中案内プロジェクトを実施しました。今回はその取り組みについてご報告します。

2012年4月某日、新規で来日したばかりの交換留学生と、ISSDのメンバーを中心とした、先輩留学生や日本人学生が約25名集まりました。新入留学生と、在校生が混在したグループに分かれ、それぞれのグループで自己紹介をした後、今すぐ行きたいところ、買いたいもの、手続きの仕方がわからないこと、行っておいたほうがいいところなどを出し合ってもらいました。そして、ルートと時間を設定できたグループは学生同士で前橋の町へバスや徒歩で出かけていきました。最後に帰学の報告を受け、その日は解散しましたが、一番不安なときに、とても助かったという新しい留学生の声や、新しい留学生と早速仲良くなれてうれしかったという在学生の声もあって、有意義な取り組みだったのではないかと思います。

なお、学生たちが街中を案内したのは以下のような場所でした。

- * 銀行・郵便局など金融機関で通帳づくり
- * ドラッグストアで日用品の購入
- * 自転車屋で自転車の購入・リサイクルショップで電化製品の購入
- * 携帯電話の契約
- * 100円ショップで便利グッズの購入
- * 先輩おすすめのお店でみんなでランチ
- * 大手家電ショップでインターネットの契約

(国際教育・研究センター講師 園田智子)



在学生と新しい中国、ブラジルからの留学生。今から出発します。

(2) 多言語プロジェクト（スペイン編・ブラジル編）について

群馬大学には30か国、約260人の留学生がいます。しかしながら日常生活の中で、留学生と日本人学生との交流はなかなか進んでおらず、日本人学生が留学生の様々な文化背景を学ぶ機会もありません。そこで、国際教育・研究センターでは、2010年度より、留学生に先生になってもらい、留学生の国や言語をみんなで学ぶ「多言語プロジェクト」を不定期で開催しています。2012年度後期に、スペイン、ブラジルの留学生が先生になってくれましたので、そのプロジェクトの様子をご報告します。

7月某日、この日の他言語プロジェクトでは、スペインからの留学生ダニエルさんが講師になってくれました。ダニエルさんの強い希望で、「カタルーニャ語とカタルーニャ地方」について教えてもらうことになりました。当日は予想に反して30人以上の参加者があり、教室がいっぱいになってしまうほどでした。カタルーニャ語は難しかった！という参加者の感想でしたが、なかなか学ぶ機会のない言語に触れられたことを皆さん楽しんでいました。

2月某日、この日は、ブラジルからの留学生Ayumiさんが講師になって、ブラジルやポルトガル語について教えてもらうことになりました。母国で教員の経験もあるAyumiさんは、参加者を飽きさせない様々な工夫でポルトガル語を楽しく教えてくれました。講座の後には、



カタルーニャ語講座の様子。地域から親子連れの参加者も。

TeaTimeが準備され、ブラジルのお菓子やコーヒーを皆さんでいただきながら、講師や様々な留学生との会話を楽しみました。講座の準備などはISSDのメンバーが中心になって行ってくれました。留学生との打ち合わせ、当日の司会など、皆で協力していいプロジェクトになってきていると思います。今後は、日本人学生の参加者を増やすことが大きな課題となっています。

(国際教育・研究センター講師 園田智子)



グループの中でポルトガル語のあいさつの練習。先生、これで正しい？

5. 留学生研修旅行（上高地方面）報告

2012年9月6日、7日の2日間にわたり、外国人留学生等実地研修が行われました。桐生、荒牧、昭和の各キャンパスから、留学生24名（中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、レバノン、イエメン）、日本人学生2名、引率2名の総勢28名での研修となりました。今回の研修先は上高地方面で、名勝地、神社、城の見学、温泉旅館への宿泊、また工場見学等を通して、キャンパスの中には知ることでできない日本を体験してきました。

(研修日程)

- 1日目 群馬大学→昼食→上高地散策・河童橋周辺
→松本城見学→旅館宿泊（諏訪湖畔）
- 2日目 原田泰治美術館見学→諏訪大社見学→昼食
→カゴメ富士見工場見学→群馬大学

研修初日、早朝に大学を出発し、バスの中で自己紹介などをしながら向かった最初の見学地、上高地はあいにくの曇り空でした。それでもひんやりとした空気の中かで河童橋から眺めた壮大な山と清らかな水が流れるその景観は学生の心に強く残ったようです。上高地の後には、松本城を見学。外観の黒さから烏城とも呼ばれる松本城を



上高地・河童橋



松本城をバックに記念撮影

何枚も写真に収め、また、城内の歴史的展示品にも興味深く見っていました。宿泊先は、諏訪湖畔の温泉旅館。お膳での食事や、露天風呂、浴衣を着ての写真撮影など旅館文化を存分に体験しました。

研修2日目、原田泰治美術館で日本各地の風景を鑑賞したあとは、諏訪大社を訪れ、地元ガイドさんの奉納相撲や御柱祭りの日本語の説明に熱心に耳を傾けていました。最後の研修先、カゴメの工場では、生産管理の方法や、海外への事業展開の状況など各自の興味を次々と積極的に質問をしながら見学しました。また、工場に併設された畑でのトマト狩り体験もあり、印象的な工場見学となったようです。

今回の研修では日常では得られない様々な経験をしたと同時に、普段、離れたキャンパスで勉強する専門の異なる留学生同士の貴重な交流の機会ともなりました。また、2名の日本人学生も、留学生のサポート役として大いに活躍してくれました。今後も留学生同士の交流、また日本人学生にも留学生との体験型交流の機会として、ぜひ多くの学生にこの研修に参加してほしいと思います。

(国際教育・研究センター講師 大和啓子)

6. 群馬大学留学生の声

遠くて近い群馬

群馬大学医学系研究科2年 オロソー・ソロンゴ（モンゴル）

初めまして。群馬大学医学系研究科小児科学に平成23年4月から留学しているオロソー・ソロンゴ（Solongo）です。名前の意味は虹です。大草原のモンゴル国の首都ウランバートル市から来ました。

両親が医師であった家族で育ち、幼い頃から病院の先生方の中で成長してきた私の夢は医者になることでした。高校を卒業して夢の医学部の入試に不合格となり、落ち込んでいましたが、先に日本語の勉強をして日本に留学しようという決心で4年間日本語を勉強することにしました。お蔭様で4年生のときに日本の大学に留学することができました。帰国してからそれでも医者になるという夢が心の中にあったのもう一度医学部に入学試験を受けて合格し、6年間の学生時代を経て、2008年にモンゴル健康科学大学医学部を卒業しました。卒業後、ある地域の診断所で研修医として1年間、それからモンゴルの母子研究センターで1年半研修しました。研修中は小児アレルギーに興味を持ち、アレルギーのことを勉強したいなぁと思うようになり、日本の文部科学省の国費留学試験に挑戦しました。その結果、運よく合格できて以前勉強した日本語を生かして医学の研究で留学できて何より嬉しいです。

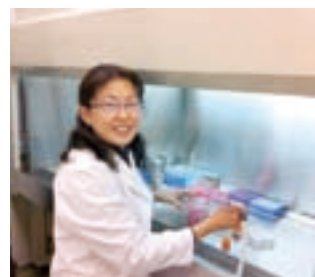
留学するにあたって大学を選択するとき、かなり悩みました。インターネットで色々な大学を検索してなるべく東京に近くて勉強も生活も落ち着いてできる大学として群馬大学を選びました。しかも小児科の主な研究が小児アレルギーで、私の研究にぴったりでした。

大学生時代が長く、経験不足のまま群馬大学での留学生活が始まりました。今まで研究室ですごした経験もない私はこの研究室に来て右も左も分からない毎日が続いていました。研究室の先生方、親切に話しかけてくれる技官さん達にご迷惑をかけながら基礎実験をはじめ、色々な実験の手法を教えてくださいました。アレルギー班の先生方の肺機能検査、食物負荷試験などの診療の見習いもし、また、臨床を忘れないために教授の専門外来、病棟の教授回診にもご一緒させていただいて私にとってはとてもいい経験になっています。沢山のことを勉強してモンゴルの子供たちに役に立つ人になって帰国したいです。天国から見守ってくれている父のやり残したことを続けて行きたいです。

また、研究以外の自由時間には大学の外国人留学生交

流サークル「Beyond」の皆さんとBBQや誕生日パーティーをしたり日本人だけではなくいろいろな国の留学生と交流ができて楽しく時間を過ごせています。国際交流課が留学生のために研修旅行、集団活動などを企画してくれるので留学生にとって日本の文化、習慣に触れ合うことができます。私は母国の紹介で県内の小・中学校に何回か行きました。日本の子供たちに世界のいろいろな国のことを知ってもらうのも大事だと思います。子供たちだけではなく一般の日本人でもモンゴルと言えば大草原、馬、朝青龍しか思い浮かびませんね。20年ぐらい前は日本人に馬に乗って学校へ行きますか？建物がありますか？などよく聞かれていましたが、モンゴルと日本の関係が日に日に発展し、「変な質問」が少なくなりました。実は、直行便で5時間ぐらいで行ける近い国、世界の国々と足を並べて発展している国だと皆さんに話しています。日本人と外国人がお互いの国の情報交換をするのにいい機会がたくさんあるのがとてもありがたい事だと思います。

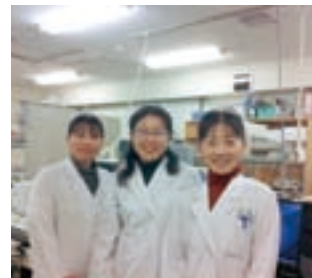
群馬に来てから「前橋市の夏は日本一暑い」、「冬は風が強い」、「赤城山の空風が強い」とよく言われていますが、確かに前橋市に到着した日は風が強かったし、初めての夏は蒸暑かったです。しかし、山もあれば川もある、雪もあれば雨もあるし、春の桜、秋の紅葉。こんな自然豊かな場所、学習環境も生活環境も整っている群馬の気候に負けないように頑張って研究を進めて行くつもりです。外国人にとっては日本と言えば東京、大阪、京都、奈良といった名所しか知られていません。群馬はどこにあるか知らないとか、遠く感じられているかもしれません。群馬県は日本のシンボルである鶴の形を描いた面積広い地域で、日本の中心地に東京からわずか2時間ほどの近距離の所にあります。どうぞ群馬県に、群馬大学に来てください。友達になりましょう。



Хол боловч ойрхон Гүнма

Сайн байна уу. Гүнма Их Сургуулийн Эмчилгээний салбарын Хүүхдийн анагаахын тэнхимд Хэйсэй 23 оны 4 сараас ирж суралцаж байгаа Оросоогийн Солонго байна. Их тал нутаг Монгол улсын нийслэл Улаанбаатар хотоос ирсэн.

Аав ээж хоёул эмч гэр бүлд өсөж, багасаа эмч нарын дунд байсан миний багын мөрөөдөл эмч болох байв. Дунд сургуулиа төгсөөд Анагаахын их сургуулийн элсэлтийн шалгалтанд тэнцэлгүй сэтгэлээр унаж байсан хэдий ч Япон хэл сайн сураад Японд суръя гэж шийдэн 4 жил япон хэл сурах болсон юм. Аз болоход 4-р дамжаандаа Японы Их сургуульд суралцах завшаан олдсон. Монголдоо харьсан ч



гэсэн эмч болох хүсэл сэтгэлийн гүнд байсан болохоор дахин Анагаахын их сургуульд шалгалт өгч тэнцэн 6 жил суралцаад 2008 онд Монголын Эрүүл Мэндийн Шинжлэх Ухааны Их сургуулийг төгссөн билээ. Төгсөөд өрхийн эмнэлэгт 1 жил, ЭНЭШТөвд 1 жил хагас резидент эмчээр суралцах хугацаанд хүүхдийн харшилын өвчин сонирхол татан улмаар Япон улсын Боловсрол Шинжлэх Ухааны Яамны тэтгэлэгт хөтөлбөрт шалгалт өгөн тэнцэж өмнө нь сурч байсан Япон хэлээ ашиглан Анагаах ухааны чиглэлээр судалгаа хийх болсондоо үнэхээр баяртай байна.

Японд сурах сургуулиа сонгох үед Токио хот хүн, хөл хөдөлгөөн ихтэй, Японы баруун талын сургуулиуд гэхээр төвөөс хол гэж бодоод интернетээр олон сургууль сонирхон судлаж аль болох Токиод ойрхон тайван амьдарч суралцахад тохиромжтойг нь хайж Гүнма Их сургуулийг сонгосон. Мөн Хүүхдийн тэнхимийн гол судалгаа нь хүүхдийн харшил. Энэ нь миний судалгааны ажилтай тохирч байсан юм.

Оюутан байсан цаг хугацаа их, өмнө нь лабораторт ажиллаж байсан туршлагагүй миний хувьд энд ирээд баруун зүүнээ ялгахгүй өдрүүд үргэлжилж байхад багш нар болон лаборантууд эелдэг дотноор харьцан, үндсэн туршилтаас эхлэн олон төрлийн арга барил зааж сургаж байна. Харшилын нарийн мэргэжлийн эмч нараас уушгиний үйл ажиллагааны шинжилгээ, хүнсний ачаалалтай сорил зэргийг суралцаж эмнэлзүйгээ мартаггүйн тулд профессор багшийг дагалдан нарийн мэргэжлийн үзлэг хийн тасгийн эмч нарын тойрон үзлэгт хамтран оролцох нь миний хувьд маш их дадлага туршлага болж байна. лон зүйл олж мэдэн Монголын хүүхдүүдэд хэрэгтэй хүн болон харихийг хүсэж байна. Тэнгэрээс харж байгаа аавынхаа хийж бүтээж дуусаагүй үргэлжлүүлмээр байна.

Судалгааны ажлаас гадуурх чөлөөт цагаар сургуулийн япон болон гадаад оюутны хамтын дугуйлан “Beyond”-ийн оюутнуудтай BBQ хийх, төрсөн өдөр тэмдэглэх зэргээр зөвхөн япон оюутан гэлтгүй олон орны гадаад оюутантай харилцаж найз нөхөр болж цагийг зугаатай өнгөрөөж байна. Олон улсын харилцааны албанаас гадаад оюутнуудад зориулан танилцах аялал, олон нийтийг хамарсан үйл ажиллагаа зохион байгуулдаг нь гадаад оюутнуудын хувьд Япон орны зан заншилд суралцахад нь дөхөм болдог. Мөн би хэд хэдэн удаа өөрийн улсаа танилцуулах зорилгоор мужийн бага дунд сургууль дээр очиж байсан. Япон хүүхэд төдийгүй Япон хүмүүс Монгол гэхээр их тал нутаг, морь, Асашёорюү гэж л мэддэг. Хориод жилийн өмнө бол мориор сургуульдаа явдаг уу? Байшин барилга байдаг уу? Гэж их асуудаг байлаа. Одоо бол Монгол Япон 2 улсын хоорондын харилцаа өдрөөс өдөрт өргөжин тэлж “сонин асуулт” асуух нь багасчээ. Үнэндээ Монгол улс бол шууд нислээр 5хан цаг нисээд хүрэх ойрхон улс, дэлхийн бусад улс оронтой адилхан хөл нийлүүлэн хөгжиж яваа улс гэдгийг хүмүүст танилцуулдаг. Япон хүмүүс болон гадаад орныхон өөр өөрийн улс орны тухай мэдээлэл солилцох чухал боломжууд их байдаг нь талархуштай хэрэг.

Гүнмад ирсэнээс хойш “Маэбаши хотын зун хамгийн халуун”, “Өвөл салхи нь их хүчтэй” гэж их хэлцгээж байсан. Үнэхээр ч Маэбашид ирсэн анхны өдөр салхи ихтэй, анхны зун бүгчим халуун байв. Гэсэн хэдий ч уул ус, гол горхи ихтэй, хавартаа сакүра намартаа кооёо ихтэй ийм сайхан байгальтай, сурах амьдрах орчин бүрдсэн Гүнмагийн цаг агаарт дийлдэлгүй судалгаагаа үргэлжлүүлнэ гэж бодож байна. Гадны хүмүүсийн хувьд Япон орон гэхээр зөвхөн Токио, Оосака, Киото, Нара гэсэн нэрд гарсан газрууд танигдсан, Гүнма хаана байдгийг мэдэхгүй, хол захад байдаг мэт санагдаж байгаа байх. Гүнма муж бол Японы бэлгэ тэмдэг болсон тогоруу шувууны хэлбэртэй өргөн удам нутаг дэвсгэртэй Японы төв хот Токиогоос хоёрхон цагийн зайтай газар байдаг Гүнма Их Сургуульд ирж суралцаарай, найз нөхөд болцгооё.

【付録】

□2012年度 国際教育・研究センター新任教員・新入職員紹介



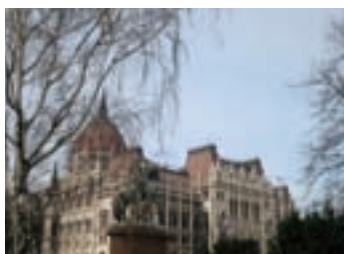
大和啓子講師（国際教育・研究センター 桐生分室）

今年度は桐生地区と昭和地区で、留学生の日本語教育を担当しています。留学生には、日本語学習を通して、日本人の考え方を知り、自文化との違いに気づくことで各自の世界観を広げて欲しいと思っています。また、日本語社会では何を気にしながら、どのように他の人とコミュニケーションしているのかといったことに興味があり、現代日本語の配慮に関わる言語行動や表現について研究しています。



周東 菜摘（工学部学生支援係国際交流担当）

工学部の学生支援係で、留学生に関連する仕事をしています。主に国費や交換留学生の受入を担当しています。こちらには、まだまだ来たばかりの新人ですが、少しでも留学生の皆さんのお手伝いが出来れば、嬉しいです。よろしくお願いします。1号館1階に居ますので、ぜひ気軽に立ち寄ってください。



発行 : 国立大学法人群馬大学国際教育・研究センター
〒371-3510 前橋市荒牧町4-2
群馬大学国際教育・研究センターニュースレター 第12号